

児童生徒の

生涯学習



を高める

教育課程の編成



研究主題 児童生徒の「生涯学習力」を高める教育課程の編成

研究主題設定の理由

私の応援計画

本校では、個別の教育支援計画を「私の応援計画」と名付けて教育課程編成の中心に据え、関係者と連携した支援を行うためのツールとして積極的に活用している。この計画は、**児童生徒が「夢」や「願い」、「目標」を教師や保護者との対話の中から見だし、自分のよさや長所に着目しながら、本人が主体となって作成するものである**。「私の応援計画」作成の過程で聞き取った「願い」から、児童生徒の「教育的ニーズ」を把握し、その達成を目指しながら、本人を主体とする教育課程の編成を行っている。

学びの主体は児童生徒自身

「私の応援計画」作成のための面談を通して、児童生徒が夢ややりたいことを伝え、それを実現するためにはどうすればよいかを考えられるようになった。**児童生徒自身が学びの主体であることを自覚し、何を学びたいか自分の意思を表現できるようになったことは、生涯にわたって成長し続けるための力を育むための素地となる**と思われる。

研究仮説

「生涯学習」につながる視点をもった教育課程を編成し、児童生徒個々のよさや長所に着目した実践を行うことで、主体的にヒト・モノ・コトに関わり、生涯にわたって学びに向かい、成長しようとする力「生涯学習力」を高めることができるだろう。

生涯学習力

主体的にヒト・モノ・コトに関わり 生涯にわたって学びに向かい 成長しようとする力

研究の内容・方法

○生涯学習についての研修会の実施

- ・校内研修会（秋田大学 原 義彦 教授，秋田県生涯学習センター 柏木 睦 氏）
- ・夏のセミナー（ポスター発表会，講演：ダウン症のタレント あべ けん太氏，シンポジウム）
- ・冬のセミナー（研究報告，講演：文部科学省障害者学習支援推進室 井口 啓太郎氏，熟議）

○生涯学習力の定義付け

- ・生涯学習につながる力「生涯学習力」を明らかにし、次年度の教育課程編成と授業づくりに反映

○3つのワーキンググループによる研究

- ・教師が関心のあるテーマのワーキンググループを選び、主体的に調査・研究を実施



リサーチグループ 生涯にわたって主体的に学び続けるために、学校で学んだことの何が活用され、何が必要かを明らかにするため、卒業生を対象にした調査を行い、結果を考察する。



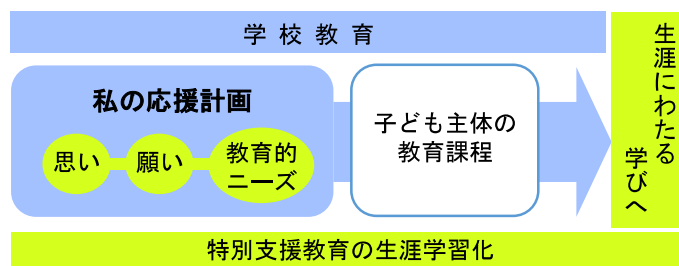
資源活用グループ 生涯学習を行うには、地域資源の活用が不可欠である。本校が関わっている地域資源を整理するとともに、さらなる活用のために何が必要かを考察する。



MIグループ 自ら学びに向かうには、得意な学び方で十分に学習した経験が重要である。児童生徒個々のよさや長所に着目し、「MI（マルチ知能）」を活用した授業づくりを行う。

社会的背景

平成29年4月に文部科学大臣メッセージ「特別支援教育の生涯学習化に向けて」が出され、障害者の生涯を通じた多様な学習活動を支援するための取組が開始された。学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議報告「障害者の生涯学習の推進方策について－誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して－」では、**学校教育における学びと学校卒業後の学びを接続し、生涯にわたって学び続けられるようにすることの重要性**や、学校教育から卒業後の学びに円滑に移行するために、**個別の教育支援計画活用の仕組みを強化する必要性**などが述べられている。以上のことから、本校における個別の教育支援計画「私の応援計画」の活用が、生涯にわたる学びのためのツールとなる可能性があると考えた。



ワーキンググループでの調査・研究

生涯学習についての研修会

夏のセミナー

オープン授業研究会

冬のセミナー

ホームページ・研究紀要

リサーチグループ



卒業生へのアンケートとインタビューから
学校で何ができるかを探りました

目的

本校卒業生・保護者の生涯学習の実施状況や意識調査を通して、現状や課題を探り、「生涯学習力」に求められる資質・能力を明らかにする。

研究の方法と対象

①アンケート調査

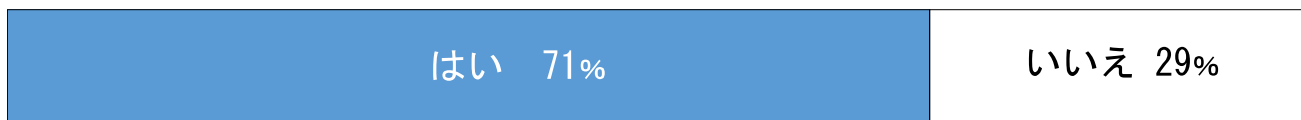
平成24年度から平成30年度の卒業生及び保護者
※回収率41/58

②卒業生インタビュー調査

半構造化面接（計6名）
（19歳2名，22歳2名，28歳2名）

アンケート調査から（一部抜粋）

①勉強していることやスポーツや趣味、習い事等をしているか



②習い事等を続けている理由（複数回答）



本校の卒業生は、習い事をしている割合が高く、在学中から継続している人が多い。理由としては【人生の豊かさ】や【健康のため】の割合が多かった。

③共生社会の実現への学習機会の要望



88%が共生社会の実現を望んでいる。

④卒業した後も勉強やスポーツ等をしていく上での課題（複数回答）



【社会の理解】や【学習の機会】【情報の収集】が多く課題として挙げられた。

☆自由記述より

保護者から「親も情報交換の機会がもっとほしい」「一つのことを特化して学ぶ場所だけではなく、そこに行けばみんなと一緒に学べる場所があるとよい」といった要望が挙げられた。卒業生本人からは「仕事を頑張っている」「コミュニケーションが苦手だが、頑張っている」「休み時間にうまく話ができない」といった就労に対する意欲や悩みが見られた。

卒業生のインタビュー結果から

役立つ学習

作業学習・進路学習
調理実習・買物学習
休日の過ごし方



ワークスキル



ライフスキル



もっと頑張ればよかった
やっておけばよかった学習

国語（漢字の読み）
数学（計算・計量）
英語（外国人との会話）

仕事での必要感 → 教科学習の重要性



自分を豊かにしてくれること

家族、友達
休息
スマートフォン
趣味



仲間との関わりを
大事にしている



困っていること
親亡き後の生活



漠然とした不安がある
具体的に親から手続きを
教えてもらっているケースも

まとめ

「生涯学習力」を高めるために必要なこと

「知の欲求への充足」
「必要に応じた情報収集，課題解決力」
「公共施設の利用などの社会とのつながり」

「仲間づくりや良好な人間関係の形成」
「就労面の安定」
「保護者への情報提供や体験の共有」

「私の応援計画」（個別の教育支援計画）の充実・活用



「思いや願い，なりたい自分を目指して何をすべきか」
「現在の自分の状況や必要性に応じて，今何をすべきか」



プランニング能力の育成

資源活用グループ



教育資源を活用した実践を整理し、
活用のために必要なことを探りました



目的

卒業後も学びに向かう力を育むには、ライフステージに応じた学びの機会、地域資源を活用した学びの経験と、その積み重ねが必要であると考えます。

各学部でどのような教育資源を活用して教育実践をしているのかを整理した。併せて、さらなる活用のために何が必要かを探った。

研究の内容

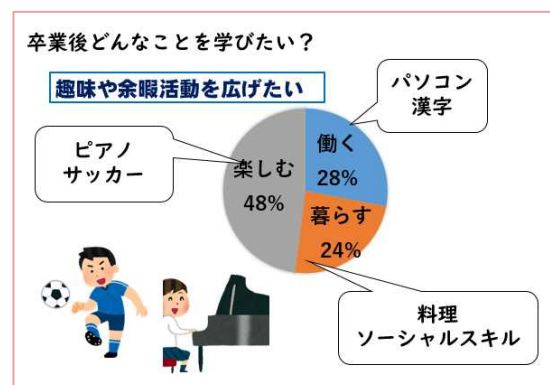
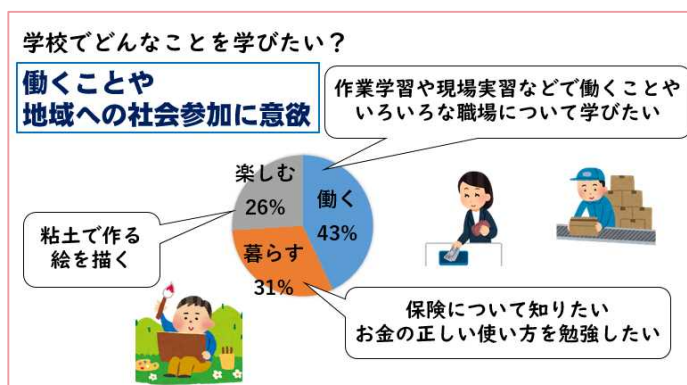
1 本校の教育資源

教育資源を、人的資源と社会環境資源に分け、さらに社会環境資源を施設や場所、物資、情報や知恵、活動している団体で分け、どのような資源があるのかを整理した。このことにより、本校を中心に様々な教育資源が潜在していることを確認した。

2 アンケート調査

高等部の生徒全26名に対して、学校で学びたいこと、卒業後に学びたいことについてアンケート調査を行った（R1.7.9実施）。「学校で、どんなことを学びたいか」の質問には、働くことや地域への社会参加のための学びに意欲を示す生徒が多いことが分かった。また、卒業後の学びは、働くためのスキル向上を目的とした活動より、趣味や余暇活動を広げるための学びが必要だと考える生徒が多かった。

「卒業後、どんなところで勉強したいですか？」の問いに対しては「自宅」と「習い事の教室」が約7割を占めた。生徒自身が選択できる学びの場が少ないことに加え、希望する活動がどこで行われているか分からない等、情報の不足も課題であると推察される。



3 本校で活用している教育資源について

(1) 教育資源を活用した一覧表の作成（紀要に添付）

本校で活用している教育資源について一覧表を作成した。表は、各学部の学習で活用している教育資源を人的資源と社会環境資源に分け、活用の目的を『関わりの広がり』『社会や知識・技術を学ぶ』『人の役に立つ、認められる』『地域へ発信や啓発』の観点で示した。

教育資源を活用するメリットには、「施設の有効活用」「障害者理解」「関わりの広がり」「文化、知識、技術の伝達と継承」「社会貢献」「イメージアップ」「出会い」「ともに楽しむ」「仲間づくり」「人材活用」等が挙げられた。

これらは、教育資源を提供する側のメリットとも関連する。地域資源を利用するだけでなく、それぞれの得意なことを生かして活躍することで、児童生徒自身が地域に必要とされる人材資源になり得ると考える。



(2) エピソードの抽出

〈小学部〉

地域でスポーツクラブを運営している方に協力をしていただき、学校にエアートランポリン等を設置したダイナミックな体操教室を開催した。事前に、本校の体育担当者と児童の実態や個々のねらい、配慮することを打合せし、年4回の体操教室を計画した。そのうち1回は、実際にスポーツクラブに校外学習として出掛け、学校にはない器具を使った運動もすることができた。児童は経験を積み重ねるごとに自信をもち、楽しみながら技術を習得し、体力向上にもつながった。

〈中学部〉

音楽の授業で「秋田音頭」を取り上げた際、民謡への興味・関心を高められるよう模範を披露してくれる方はいないかと、秋田県生涯学習センターに相談をした。踊りサークル『洋の会』とつながり、丁寧な踊りの指導を通して、生徒たちの学習意欲を高めることができた。また、踊りサークルの方からも、「生徒たちの反応がよく、楽しかった」「学校に入ったことがなかったのでも来てよかった」などの感想が聞かれた。

〈高等部〉

作業学習では、それぞれ地域資源を活用し、主体的で能動的な関わり合いをしている。サービス班は、附属幼稚園や附属小学校の清掃活動を定期的に行っており、生徒が作業をしていると児童や職員から「お疲れ様です」「ありがとうございます」と声を掛けられることが増えた。生徒の作業日誌や反省から、自己有用感の高まりを感じ取ることができた。

陶芸班は、造形作家の先生から模様付けの技法を教わり、新しい技術にふれる喜びを感じたり、その技法を製品にどのように生かせるかを考えたりする様子が見られた。

楽しく体を動かしながら
多様な運動の経験ができないかな？

体育館にエアートランポリンなどを設置し、
指導者を招いてダイナミックな体操教室



生徒が民謡への興味・関心を高められるように、模範を披露してくれる方はいないかな？



秋田県生涯学習センター
(コーディネーター)



生徒たちの反応がよく、楽しかった



踊りサークル「洋の会」の方々の踊りを見たり、踊りのこつを教えてもらったりした。

陶芸班



ハンドクラフト班



サービス班

ありがとうございます



お疲れ様です

自己有用感の高まり 地域の理解
高等部の生徒自身が地域資源として活躍

4 生涯学習力につながる教育課程編成のキーワード

- ・ 出会い、実現する経験
- ・ 公共の施設を利用した学習活動
- ・ 様々な人との関わりと温かい交流
- ・ 双方にメリットがある教育資源の活用
- ・ 地域の人材を活用した授業づくり
- ・ 汎用性のある活動と経験
- ・ 共に楽しむ仲間づくり

まとめ

- やりたいこと、学びたいと思う心の動きを実行動に変えるには、利用施設がどこにあるのか、どんな手続きが必要であるのか等の『情報収集力』と、どのように学ぶのかの『プランニング能力』が大切となる。そして、情報収集力やプランニング能力は、教育資源を活用した学習の中で育まれると考える。
- 一人で学ぶよりも、みんなで学ぶ方が楽しかったという思いが、積極的な社会参加や個人の生活を豊かにすることにつながると考える。加えて、何かをしたいと思ったときに、「一緒にやってみよう」と誘える仲間がいることも、新しいことにチャレンジするエネルギーの一つとなる。そのため、在学中から、友達との関わりを深め、好きなことや趣味を共有できるような機会をもつことが大切と考える。
- 教育資源を活用するために、学校として「教育資源の情報収集と積極的な活用」「教育資源と学校を結ぶ連携窓口の明確化」「教育資源側との目的やねらいの共有」「取組や成果の発信による地域への理解啓発」についても、さらに検討、研究を深めていく必要がある。



MI グループ (Multiple Intelligences)



マルチ知能を活用して
学びに向かう力を育もう！

目的

「生涯学習力」につながる「学びに向かう力」を育むため、児童生徒の得意な学び方に着目した実践を行う。より多面的に児童生徒の学びを捉えるため、MI (Multiple Intelligence マルチ知能) の視点を授業に取り入れるとともに、誰もが学びやすく、分かりやすいユニバーサルデザインの授業づくりを目指す。

研究の方法と内容

- 1 教師がMIを学ぶ
 - ・MIについての文献研究, MIを活用した支援方法についての学習会
- 2 MIを活用した授業づくり
 - ・小学部：どのような子どもに育てたいか（伸ばしたい知能）に着目した授業づくり（図画工作科）
 - ・中学部：集団のMIの傾向に着目した授業づくり（音楽科）
 - ・高等部：自分に合った学習方法を選び、主体的に学びに向かうための授業づくり（課題別学習）

MIについて

MI (Multiple Intelligences) は、多重知能やマルチ知能と訳される。アメリカの心理学者ハワード・ガードナーが提唱した理論であり、知能はIQだけではなく、人間の行動、思考、感情を脳の働きを基に、8つに分類できると唱えている。本校では児童生徒の学び方は多様であり、個々のよさを発揮しながら学習を行うことが主体的な学びにつながると考え、本理論を参考にした授業づくりを行っている。MIの分類を児童生徒の得意な「学びのスタイル」と捉え、授業の手立てや自己理解につなげることを目指している。

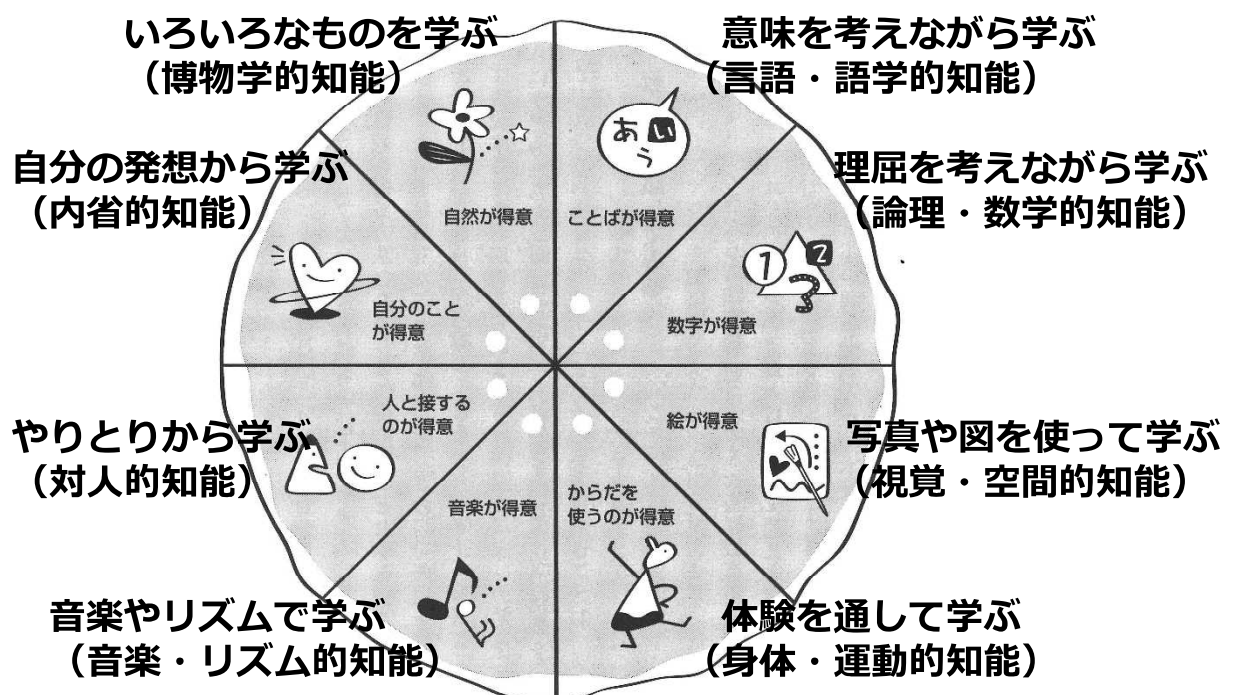
よさや長所
得意な学び方



マルチ知能

もっとやりたい
学ぶのが楽しい
仲間と学びたい
自分で解決できる
学びに向かう力

生涯学習力



MI を活用した授業

【小学部】図画工作：伸ばしたいMIを活性化させるため得意なMIを活用

教育的ニーズから、どのような子どもに育てたいのか、成長した姿を想定し、伸ばしたいMIに着目した授業づくりを行った。教育的ニーズが「自分の思いや考えを相手に伝わるように表す」であることから、**内省的知能**（思いを表現する、自分を振り返る）の活性化をねらった図画工作科の事例では、本人が得意な**音楽・リズム的知能**、**身体・運動的知能**を活用し、曲を聴きながら体を動かして造形遊びを行った。伸び伸びと活動する中で「こうしてみたい」という発想が生まれ、自ら発想する力「**内省的知能**」を使って活動できるようになった。



【中学部】音楽：集団のMIの傾向を考慮しグループ活動の中で活用

中学部は19名の生徒の得意なMIを考慮して授業づくりを行った。「**写真や図を使って学ぶ**」視点から、生徒が5音階を使って旋律を考えられるように、視覚的に捉えやすい色音符の楽譜を用意した。また、「**体験から学ぶ**」視点から、友達の様子を互いに評価できるように、表現方法の工夫についてグループ別に合わせる場面、みんなで見合う場面を設けた。

このように、一人一人の学び方の特徴から、集団における有効な学び方の傾向を把握し、学習課題に対して**生徒の得意なMIを生かす授業**を展開できた。



【高等部】課題別学習：得意・苦手なMIを踏まえ、自分に合う「学びのスタイル」を選択・判断

授業づくりに当たり、MIに関するアンケートを参考にし、生徒の得意・苦手なMIを把握してから、具体的な活動内容や手立て、グルーピングなどを考えた。**論理・数学的知能**（理屈を考える）に関連するめあてに対して、生徒たちは立地場所、客層、商品、価格など社会科や家庭科の見方・考え方を働かせながら、意欲的に学習に取り組んだ。また、店の図面の作成（**視覚・空間的知能**）や、客や店員を演じる（**対人的知能**、**身体・運動的知能**）など、発表内容や方法を考えることで、自分に合う「学びのスタイル」の自己理解が深まった。



まとめ

MIの活用



教師



何を学ぶか

どう学ぶか

児童生徒



問題発見

自己理解

MIについての文献研究、授業実践を通して、MI及び「学びのスタイル」を活用する上でのポイントを抽出した。

MIの視点を取り入れた授業づくりを通して、教師にとっては、手立てや活動内容設定【何を学ぶか】や、手立てを考慮する際【どう学ぶか】の裏付けとなり、より根拠のある実践ができた。

児童生徒の得意なMIに働き掛けたことで、課題に対する動機付けや興味・関心が高まり、自ら問題を発見し、解決しようとする力【問題発見】が育まれた。

今後は得意なMIを児童生徒自身が自覚し、自ら「書いて教えてください」「実際にやってみてもいいですか？」と具体的に依頼できるようになることを目指す。自分が分かりやすい学び方を積極的に伝えることは、自立活動の観点からも重要であり、援助希求の力を高め、合理的配慮の要請につながっていく。このように得意な学び方を自覚すること【自己理解】が、「生涯学習力」をより高める上で必要だと考える。

ワーキンググループでの研究による成果と課題

1 成果



生涯学習についての理解

教師の主体的な研究への取組



研究のポイントの根拠を実感

2 課題

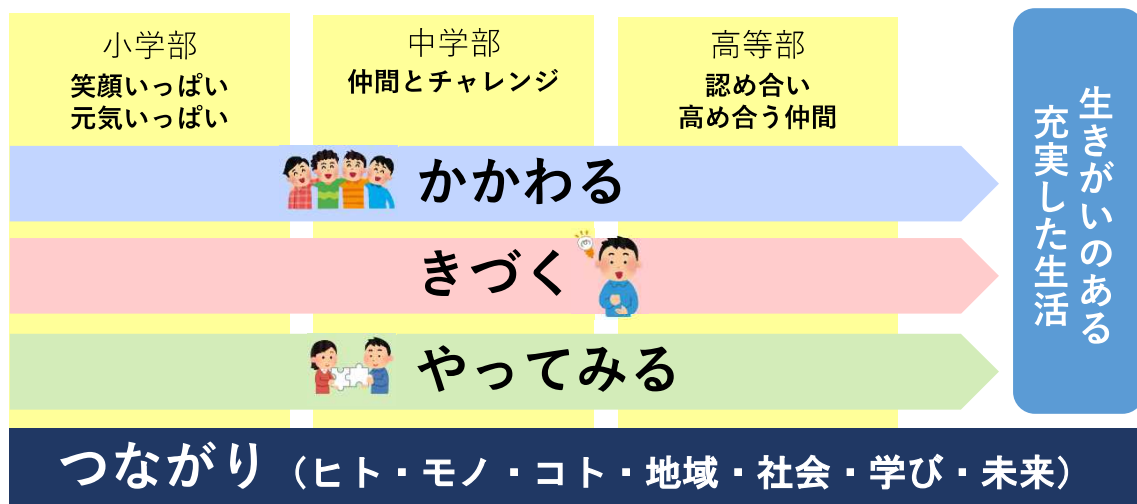
- ・リーダーの負担大
- ・研究スタート時の課題共有の難しさ
- ・研究と授業の結び付きが希薄な印象



研究成果と授業のつながりが
実感できるようにしたい

生涯学習力を高める授業づくりのポイント

3グループの研究結果より、「生涯学習力」を高める授業づくりのポイントとなるキーワードを抽出した。新しい環境に出会い、仲間と共に様々なことを体験する中で【かかわる】，自ら新たな価値に気づき【きづく】，自信をもって行動する【やってみる】ことが生涯学習力を高めると考えた。学んだことが，他の学びや次の学び，また，自分を取り巻く社会とつながっている【つながる】ことを実感できるような授業を行うことで，必要な資質・能力を育み，生涯にわたって成長を続けながら生き生きと生活する姿につなげていきたい。



生涯学習力を高める教育課程編成への提言

本研究で得られた結果から、「生涯学習力」を高める教育課程編成の際のポイントについて，次のような示唆を得た。

卒業後も様々なことに興味・関心をもち，自ら学びに向かうためには，やりたいことを自分で選ぶ力を養う必要がある。児童生徒の**選択の機会を保障**した単元構成を行い，主体的に学びに向かう力を育みたい。

また，どのような道筋で学ぶか，どの方法で学ぶかを計画する力（**プランニング能力**）も必要である。児童生徒が自ら計画し，実行する経験を重ねることで，卒業後の行動力・実行力につながるような力を育みたい。

これらの力を育成するため，**学びのつながりや社会とのつながりが実感できる教育課程**を編成することを目指す。本校で学んだ子どもたちが，卒業後も社会の中で生き生きと人生を送る姿を願って今後の研究を行っていききたい。

